

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	木質耐力壁構造性能評価法小委員会	主 査 名：榎本敬大 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：五十田博 (主 査 名：腰原幹雄)
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2021 年度までに「木質耐力壁構造 Q&A」(2011 年 8 月刊)の改訂版の原案を作成した「木質耐力壁構造 Q&A 改訂委員会」を引き継ぎ、内外の内容確認・調整を行って出版することを設置期間前半の目標とする。</p> <p>後半では近年の技術開発により整備、蓄積された様々な学術的知見を再整理し、既往の知見と合わせて木質系耐力壁形式構造に関する設計思想や設計方針、及び具体的設計方法を体系的な整理に向けた足がかりを得ることを目的とする。</p> <p>初年度：前身の委員会で作成された木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の原案について、上位委員会等の査読を受け、査読対応を行い、出版準備を行う。</p> <p>2 年度：改訂版「木質耐力壁構造 Q&A」の正誤や質疑等の対応を行い、木質耐力壁構造の設計法に関する現状の問題点や技術的な課題等を収集する。</p> <p>3 年度：木質耐力壁構造の設計法に関する現状の問題点や技術的な課題等について、対応方針や必要な技術開発等について今後の検討方針を整理する。</p> <p>4 年度：木質耐力壁構造の設計法について体系的に整理する上で必要な技術的知見等について整理し、今後の技術開発の促進に必要な事項を整理する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：榎本敬大(建築研究所)</p> <p>幹事：杉本健一(森林総合研究所)、梶川久光(明治大学)</p> <p>委員：小川春彦(ミサワホーム総合研究所)、山崎義弘(建築研究所)、青木謙治(東京大学)、藤野栄一(職業能力開発大学校)、岡本滋史(大阪公立大学)、後藤隆洋(日本住宅・木材技術センター)、林崎正伸(建材試験センター)、大橋修(三井ホームコンポーネント)、大浦和香子(ポラス暮らし科学研究所)、津田千尋(ベターリビング)、高岡繭子(フリーランス)、落合陽(東京都市大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	木質系耐力壁の性能分析 WG：木質耐力壁構造 Q&A」の改訂版の原案の査読対応と出版準備に対して支援を行う。また、木質耐力壁構造の設計法や耐力壁の構造性能に関する現状の問題点や技術的な課題等を収集する。	
2022 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small>	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の原案の記述内容について、当初計画していなかったが、各章ごとに担当者を決めて読み合わせを行い、技術的知見や文章表現等について精査した。その結果、記述内容の精度が格段に向上した。</p> <p>2. 木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の原案について、今年度中に上位委員会の査読を開始する予定であったが、読み合わせ作業を追加したために開始できなかった。2 年目に速やかに上位委員会の査読を開始する予定とした。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 当初から予想はされていたが、記述内容の詳細の討議には対面会議が適していると考えられるものの、コロナの影響もあってなかなか対面開催が難しく、討議・読み合わせに予定以上の時間を要した。</p> <p>2. Web 参加者が多く、当初見込んでいた旅費の消化ができなかった。</p>